

開催日：平成23年5月27日（金）
会場：京成ホテル ミラマーレ

総出席者数 71名（有効委任状を含む）にて総会は、無事成立しました。

司会進行役は、山田 淳一（君津支部）が担当し、高木 憲一（船橋支部）の開会の辞の後、議事に入りました。議長に荒井 恭一（安房支部）、副議長に西村 純（船橋支部）が選任されました。

第1号議案および第2号議案について慎重審議が行われ、その後第4号議案および第5号議案も承認されました。



新役員紹介

■ 理事会役員

会長	荻原 幸雄	市川 浦安
副会長	高木 憲一	船橋
副会長	泉川 安雄	東葛
副会長	宮下 登久子	千葉
副会長	畔上 廣司	東葛
会計理事	神谷 繁樹	松戸
常任理事	山田 淳一	君津
常任理事	白井 一裕	千葉
常任理事	飯嶋 茂信	東総
常任理事	宍倉 義昭	習志野
理事	須田 正美	千葉
理事	染谷 孝幸	松戸
理事	西澤 博文	船橋
理事	小林 裕	八千代
理事	加藤 義道	印旛
理事	齊藤 弘史	印旛
理事	加納 秀樹	成田
理事	山田 滋	山武
理事	井桁 正昭	長生
理事	矢崎 武司	長生
理事	金子 康男	君津
理事	伴流 忠夫	安房
理事	倉持 久弥	安房
理事	鈴木 兼次	市川浦安
理事	青木 光	夷隅
監事	長谷川 清次郎	船橋
監事	竹内 修	税理士
顧問	室井 保	船橋
相談役	青山 靖	税理士

■ 支部長

千葉支部	白井 一裕
東葛支部	杉山 裕一
松戸支部	鈴木 泰久
船橋支部	西村 純
習志野支部	宍倉 義昭
八千代支部	小林 裕
印旛支部	海宝 弘和
成田支部	内山 隆司
東総支部	名雪 博
山武支部	山田 滋
長生支部	内山 洋史
君津支部	遠山 茂一
安房支部	沼野 秀幸
市川浦安支部	財部 好史
夷隅支部	寺尾 重雄

＜階段は、上がるだけのもの＞

夜中に、目が覚めた。時計は四時。起きるには早すぎるが、トイレが我慢できない。寝惚け眼で、階段を下りる。途中「あっ」と足を踏み外し、尻を打った。手摺に掴まっていたので、幸い事なきを得た。勾配が急なので、上りはいいが、下りるときは足を踏み外しやすく怖い。住宅内の事故では、階段は浴室に次いで多いのである。

考えてみると、日本と欧米での階段の役割は、随分と違うようだ。日本では、住宅に限らず、お城や神社仏閣など、皆急階段で、登る時はともかく、降りるときはへっぴり腰で注意しないと、滑り落ちる危険がある。

天守閣に登るには、階段というよりは、「はしご段」である。降りるときは、段板に掴まって、後ろ向きにならざるを得ない。まるで登る時のためだけに付けてあるようだ。

一方、欧米での階段は、勾配がゆるく、ゆったりとして上り下りし易くなっている。映画などで見ても、エントランスホールの正面に、しゃれた手摺の付いた階段が出てくる。主人公が、階段を駆け下りてくる。見ていて危ないという感じはしない。ヴェルディのオペラ「アイダ」では、凱旋將軍ラダメスは王のいる広場へ、舞台正面の大階段を、兵を引き連れて下りてくる。「はしご段」のような階段では、格好がつかない。檜舞台上がる。頂上に達する。勤め人は出世の階段を昇る。頂上を極める。わが国では何事も、上がっていくことに目標がある。そこから降りてくることは、考えていない。

国会では、演壇に上がり演説をする。投票も段を上がって行く。投票者も壇上に行くまでは、胸を張って堂々としているが、降りるときは背中を丸めて、敗北者のような格好である。上がりきった時に、総ては終わっている。



欧米では、権威をしめすため、階段は下りるために造られているようだ。王が君臨している上段から、降りてくる。バルコニーで演説をして、民衆に近づくために降りてくる。將軍は踊り場から部下に命令を下し、ゆうゆうと降りてくる。見せ場は常に降りてくるときである。滑って転べば、権威は失墜する。当然ゆったりと、見場の良い階段となる。わが国では階段などは、単に機能として上がり降りできれば良いとする。欧米では上から見下ろして、権威の象徴としての役目を持たせる。役割が違う。造り方が違ってくるのは、理の当然である。

わが家の階段に権威は必要ない。わが身の安全のため、もうチョットゆとりが欲しいだけである。せめて寝惚け眼でも、滑り落ちることの無い階段にしたいが、狭い我家では、難しい。それでも二階にトイレを造る位は、何とかなりそうである。

かの「ベルサイユ宮殿」には、トイレが無いという。それに比べれば、ちっぽけな我家にトイレが二つとは、何という贅沢だろうか。街の設計事務所としては、始めから2階にもトイレを設計するか、せいぜい滑り落ちない階段を工夫する事ぐらいが、精一杯である。

八千代支部 下橋祐次